

2019年版

惣 菜 白 書

—ダイジェスト版—

一般社団法人日本惣菜協会

「2019年版惣菜白書」収録内容(目次)

第一章 惣菜市場の動向

1. 調査概要
2. 惣菜市場規模
 - ① 2018年のトータルマーケットは
前年比102.0%の10兆2,518億円
 - ② 算出の方法
 - ③ 業態別直営店、テナント売上比率(2018年)
 - ④ 業態別カテゴリーマーケット
3. 調査結果の詳細
 - ① 調査対象企業の総売上高と食品売上高、エート
 - ② 惣菜売上高の推移
 - ③ カテゴリー別惣菜売上状況
 - ④ 3年後(2021年)の惣菜売上高予測
 - ⑤ おせち料理の売上高(2018年)
 - ⑥ 恵方巻きの売上高(2018年)
 - ⑦ 惣菜売上高の直営とテナントの比率
 - ⑧ 惣菜売場の運営方法
 - ⑨ 2~3年後の直営調理状況予測
 - ⑩ 使用国産原料の増減
 - ⑪ 品揃えで意識する客層
 - ⑫ 現在、品揃えをしている惣菜カテゴリー
 - ⑬ カテゴリー別の品揃え品目
 - ⑭ 惣菜カテゴリー別の今後の取扱いの予測
 - ⑮ 今後注力する商品
 - ⑯ 現在、惣菜売場で行なっている施策
 - ⑰ 今後惣菜売場で重視する施策

第二章 消費者動向

1. 調査概要
- ① 調査の設計
- ② 調査対象者フェイスシート
- ③ 調査対象品目
2. 調査結果の要約
 - ① 惣菜の種類別利用状況
 - (1) 最近半年間での品目ごとの購入頻度
 - (2) 最近1週間での品目ごとの購入頻度
 - (3) 購入場所別にみた購入頻度
 - (4) 食事時間別にみた利用状況
 - (5) 食事機会別にみた利用状況
 - ② 惣菜購入に関する時系列分析
 - (1) 1回あたりの購入種類
 - (2) 月平均購入金額
 - (3) 惣菜の単価の目安
 - (4) 惣菜類の購入頻度の増減
 - (5) 惣菜類の価格感の変化
 - (6) 今後の惣菜の利用意向
 - (7) 惣菜の消費期限の確認
 - (8) 惣菜の賞味期限の確認
 - (9) 惣菜の原料・原産地についての表示の確認
 - (10) 惣菜の遺伝子組み換えについての表示の確認
 - (11) 惣菜の添加物表示の確認
 - (12) 惣菜のアレルギー表示の確認
 - (13) 惣菜のカロリー表示の確認
 - (14) 惣菜購入時の選択基準
 - (15) 今後購入したいと思う惣菜
 - (16) 特定の購入先の有無
 - (17) 惣菜を購入しやすい店の条件
 - (18) 今後、通信販売で惣菜を購入する機会
- ③ 惣菜に関する意見
 - (1) 惣菜全体に対する評価
 - (2) 売り方について
 - (3) 調理時間について
 - (4) 惣菜の経済性について
 - (5) 惣菜の作り方について
- ④ 食品全般に関する意見
 - (1) 2~3年前と比べて食事の変化
 - (2) 食の安全・安心について
- ⑤ おせちに関する意見
 - (1) 購入について
 - (2) おせちの購入場所
 - (3) おせちの購入金額
- ⑥ 恵方巻きに関する意見
 - (1) 購入について
 - (2) 恵方巻きの購入場所
 - (3) 恵方巻きの購入本数
 - (4) 恵方巻きの購入金額(1本あたり)
- ⑦ 袋物惣菜に関する意見
 - (1) 購入について
 - (2) 購入した商品
 - (3) 袋物惣菜の購入場所
 - (4) 袋物惣菜の1ヶ月購入回数
 - (5) 袋物惣菜の購入金額
 - (6) 袋物惣菜の購入理由

参考資料編

- 惣菜に関する市場規模について
 「家計の食料飲料支出額」(国民経済計算)
 調査票
 「惣菜販売動向」に関する調査
 (専門店用)
 「惣菜販売動向」に関する調査
 (百貨店、GMS、SM、CVS用)
 お惣菜に関するお問い合わせ(消費者用)

「惣菜白書」について

一般社団法人日本惣菜協会では、昭和55年より惣菜に関する調査研究を開始し、惣菜の業態別市場規模や事業者動向、消費者動向などを取りまとめた「惣菜白書」として刊行し、今年で15冊目となります。

「惣菜白書」は、惣菜が生活者の食生活に欠かせない社会的なインフラとして成長してきた過程を毎年追跡し、業界の現状を広く把握、白書としてとりまとめると同時に、行政界においても発表資料として活用されています。惣菜業界唯一の基礎データ集として、行政、大学、研究機関、マスコミなど業界外からも注目を集めております。

2018年の市場規模は**10兆2,518億4400万円**となり、毎年成長を遂げております。このように市場が拡大していることは、生活者のニーズが変化していく中、惣菜には高い期待が寄せられている事の表れだと考えます。その期待に応えるべく、更に誠実に生活者のライフスタイルの多様化に対応していく必要性を感じているところであり、また同時に、業界の健全な発展と山積する課題解決のために活動していくかなければならないことを痛感しています。

本書の発刊にご協力頂きました皆様に感謝するとともに、本書が惣菜産業の更なる発展のために、各企業の成長に役立つ指針となれば幸甚でございます。

惣菜の定義

市販の弁当や惣菜など、家庭外で調理・加工された食品を家庭や職場・学校・屋外などに持ち帰ってすぐに(調理加熱することなく)食べられる、日持ちのしない調理済食品としている。したがって、事業所向け給食および、調理冷凍食品やレトルト食品など比較的保存性の高い食品は除いている。

米飯類 …おにぎり、寿司、弁当など

調理麺 …調理済み焼きそば、うどん、そば、スペグティーなど

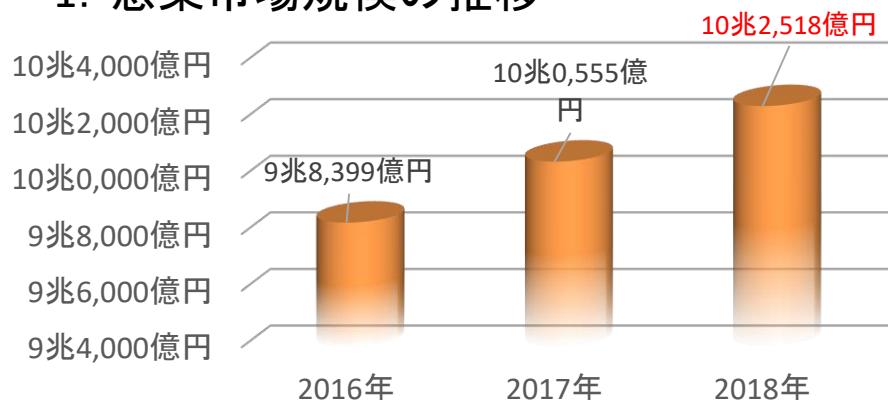
調理パン …サンドイッチなど(※一般に常温売場で販売されている菓子パンは含まれない)

一般惣菜 …和・洋・中華の惣菜、煮物、焼物、炒め物、揚物、蒸し物、和え物、酢の物、サラダなど

袋物惣菜 …“容器包装後低温殺菌され、冷蔵にて1カ月程度の日持ちする調理済包装食品” ポテトサラダ等のサラダ、肉じゃが、鯖の味噌煮など

惣菜市場動向

1. 惣菜市場規模の推移



	2016年	2017年	2018年
惣菜市場規模	9兆8,399億円	10兆555億円	10兆2,518億円

惣菜市場規模は2017年に10兆円を突破し、
2018年も順調に推移

- ◆ 2017年惣菜市場規模は10兆555億円
- ◆ 2018年惣菜市場規模は10兆2,518億円

* 惣菜白書本誌では、2008年からの市場規模推移を見ることができます。

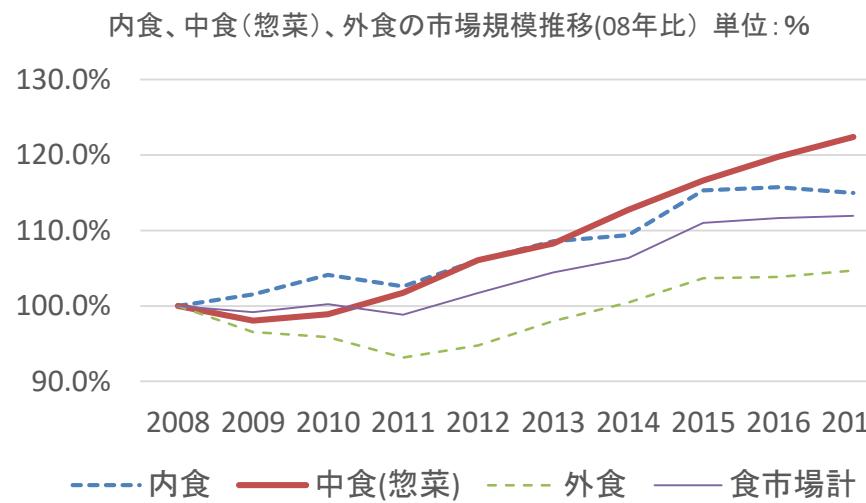
2. 「食」の市場規模と構成比推移

食市場全体の中でも特に惣菜市場の成長は著しく、10年前と比較すると122%を超えてきており、高齢化・核家族化・女性の社会進出などライフスタイルの変化を反映して、惣菜の利用が大きく増加していると考えられる。

	内食	中食(惣菜)	外食	食市場計
2008年	307,274億円	82,156億円	245,068億円	634,498億円
2017年*	353,281億円	100,555億円	256,561億円	710,397億円
08年-17年比	114.9%	122.3%	104.6%	111.9%

*発刊時点で2018年外食市場規模(7月頃)及び内閣府「国民経済計算」2018年分統計(12月頃)が未発表のため、2017年数値で比較しています

各分野堅調な中、中食(惣菜)市場が国内の食シーンをけん引している。

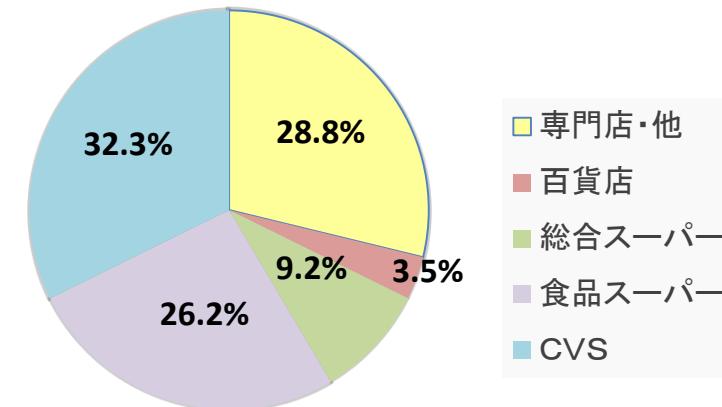


惣菜市場動向

3. 業態別市場規模

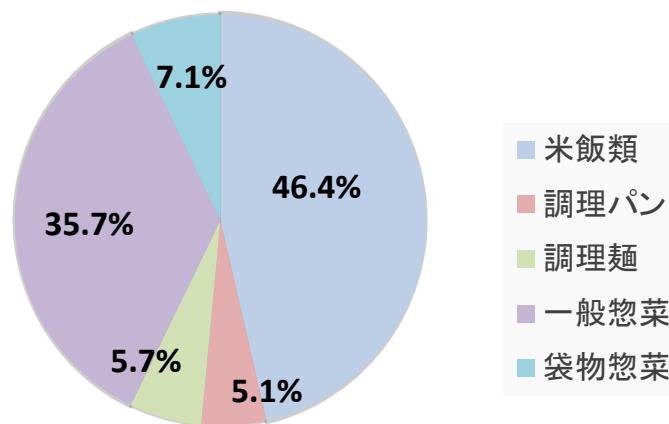
業態別 市場規模	2017年		2018年		
	市場規模	構成比	市場規模	構成比	前年比
専門店・他	2兆9,204億円	29.0%	2兆9,542億円	28.8%	101.2%
百貨店	3,643億円	3.6%	3,596億円	3.5%	98.7%
総合スーパー	9,212億円	9.2%	9,481億円	9.2%	102.9%
食品スーパー	2兆6,205億円	26.1%	2兆6,824億円	26.2%	102.4%
CVS	3兆2,289億円	32.1%	3兆3,074億円	32.3%	102.4%
合計	10兆0,555億円	100.0%	10兆2,518億円	100.0%	102.0%

業態別構成比(2018年)



4. カテゴリー別構成比

カテゴリー別構成比(2018年)



- ◇「業態別構成比」ではCVSが、2015年に専門店・他を上回って以降も増加が続いている。
 - ◆「カテゴリー別構成比」では米飯類が最も多いが、年々その割合は低下してきている。
 - ◆2012年度より調査を開始した袋物惣菜が増加してきている。
- * 惣菜白書本誌では、各業態別のカテゴリー構成比を見ることができます。

消費者動向

消費者調査結果

①最近半年間での品目ごとの購入頻度（各品目を半年間で3回以上購入した消費者の割合）

	1位	2位	3位	4位	5位
首都圏	おにぎり (52.7%)	弁当 (50.9%)	サンドイッチ (43.7%)	コロッケ (41.8%)	にぎり寿司・ 巻き寿司 (40.3%)

②購入場所別に見た購入頻度の高い惣菜 上位5品目：スーパー・マーケット（生協を含む）の場合

△	1位	2位	3位	4位	5位
首都圏	コロッケ	にぎり寿司・巻き寿司	鶏の唐揚げ	天ぷら	野菜サラダ
近畿圏	コロッケ	にぎり寿司・巻き寿司	鶏の唐揚げ	天ぷら	野菜サラダ
東北圏	コロッケ	にぎり寿司・巻き寿司	鶏の唐揚げ	天ぷら	野菜サラダ
九州圏	にぎり寿司・巻き寿司	コロッケ	鶏の唐揚げ	天ぷら	いなり寿司

①最近半年間での品目ごとの購入頻度

◆首都圏では、前回の1位と2位が入れ替わり、おにぎりが1位となった。

おにぎりと弁当は半数以上の消費者が半年間で3回以上購入しているという結果に。

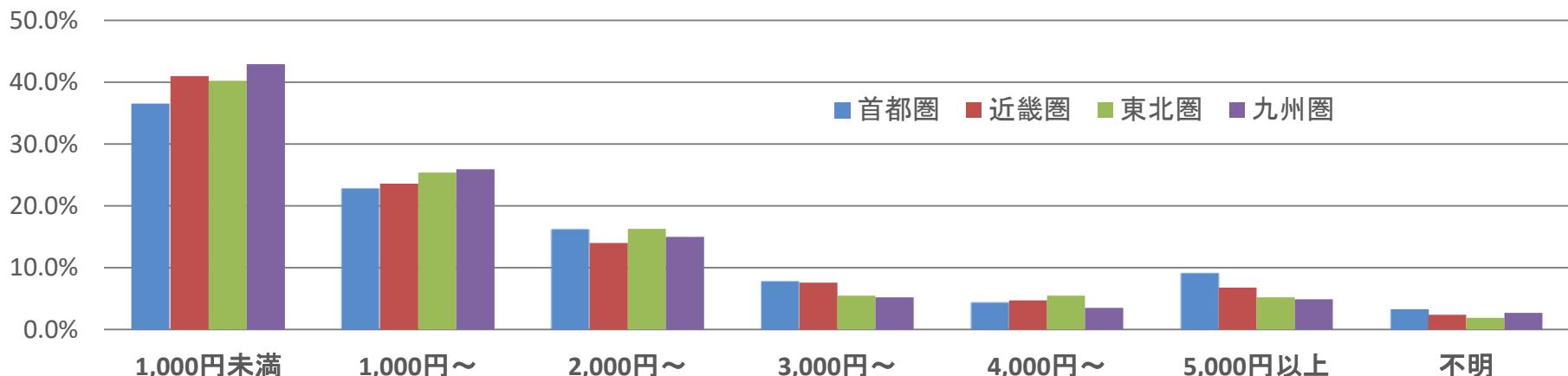
②購入場所別に見た購入頻度の高い惣菜 上位5品目

◆揚げ物のおかず類と寿司類で構成されている。各エリアともに、上位5品目は全体の上位5品目とほぼ同じだが、九州圏のみ「いなり寿司」が5位にランクインしている。

* 惣菜白書本誌では、業態別・エリア別以外にも、時間帯別（朝食・夕食等）や食事機会別（普段・来客時等）データを見ることができます。

消費者動向

③惣菜の月平均購入金額

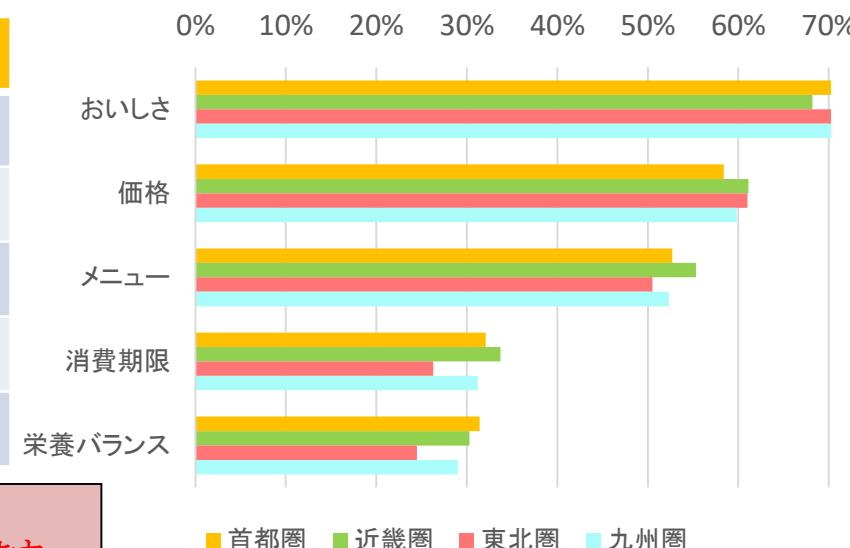


◆各エリアともに“2,000 円未満”が半数以上を占めている。首都圏・近畿圏は他のエリアに比べ月平均購入金額が高い。
 * 惣菜白書本誌では、4年間の時系列でエリア別以外にも、購入種類数や単価等の詳細データを見ることができます。

④惣菜購入時の選択基準

	首都圏	近畿圏	東北圏	九州圏
おいしさ	72.7%	68.2%	71.3%	71.9%
価格	58.4%	61.1%	61.0%	59.8%
メニュー	52.7%	55.3%	50.5%	52.3%
消費期限	32.1%	33.7%	26.3%	31.2%
栄養バランス	31.4%	30.3%	24.5%	29.0%

◆各エリアとも「価格」より「おいしさ」重視する傾向が続いている。
 * 惣菜白書本誌では、より多くの項目の詳細なデータを見ることができます。



消費者動向

⑤おせちの購入

	首都圏	近畿圏	東北圏	九州圏
購入した	16.0%	19.5%	11.1%	18.9%
購入していない	84.0%	80.5%	88.9%	81.1%

⑥恵方巻の購入

	首都圏	近畿圏	東北圏	九州圏
購入した	31.2%	51.1%	34.6%	35.9%
購入していない	68.8%	48.9%	65.4%	64.1%

⑦袋物惣菜の購入

	首都圏	近畿圏	東北圏	九州圏
購入した	29.1%	29.5%	28.4%	26.6%
購入していない	70.9%	70.5%	71.6%	73.4%

* 惣菜白書本誌では、4年間の時系列でエリア別、購入場所（チャネル）別、単価別等の詳細データを見ることができます。

惣菜市場動向調査では、2016年版以降は企業統合等を鑑み、調査対象企業を前年版よりも現状に即した業態別に変更し、よりマクロデータとしての信頼性を高める取り組みを行っております。

また、消費者動向調査では、個別商品の◎購入頻度 ◎購入店舗 ◎「いつ食べるか」 ◎「どんな時に食べるか」という4つの視点から調査を行い、惣菜の個別商品の使われ方を立体的に捉えると同時に、前回調査との比較により消費者意識の変化を捉え、個別商品がどのようなシーンで使われているかを明らかにすることを目的とした具体的な品目での調査を行っております。

ご購入を希望されます場合は、

◎ 「日本惣菜協会」ホームページ → 出版物・調査研究 → 出版物申込み

または、下記アドレスからお申し込み願います。

◎ <http://www.nsouzai-kyoukai.or.jp/outline/publishing/syosekikounyu/>

「惣菜白書」について

業態定義

専門店、他	<ul style="list-style-type: none"> ・惣菜専門店: 惣菜販売店、持ち帰り弁当店、仕出し弁当店、給食業者、駅弁売店、寿司販売店、おにぎり販売店、調理パン小売業(サンドイッチ、ハンバーガー等) ・イートインコーナー併設型惣菜店 ・受注後調理型惣菜店 ・専門店(衣食住何れかの販売額が90%以上)業態の料理品販売 ・中心店(衣食住何れかの販売額が50%以上)業態の料理品販売 ・その他の小売店
-------	--

百貨店	以下の条件にあてはまる事業所の料理品(惣菜)販売額
	<ul style="list-style-type: none"> ・セルフ販売でない ・衣食住商品の販売額比率が各10%以上70%未満 ・従業者50名以上

総合スーパー	<ul style="list-style-type: none"> 以下の条件にあてはまる事業所の料理品(惣菜)販売額 ・総合スーパー: 衣食住にわたる各種商品を小売し、そのいずれも小売販売額の10%以上70%未満の範囲内にある事業所で、従業者が50名以上 ・衣料品スーパー: 衣料品の販売額70%以上、250m²以上 ・住関連スーパー: 住関連品の販売額70%以上、250m²以上 ・その他スーパー: その他の各種商品小売業に格付けされ、コンビニエンスストアに該当しない、セルフサービス方式を採用している事業所 ・ドラッグストア: 主に一般医薬品及び医療用品を販売
--------	--

食料品スーパー	以下の条件にあてはまる事業所の料理品(惣菜)販売額
	<ul style="list-style-type: none"> ・食料品の販売額比率が70%以上のスーパー ・250m²以上

CVS	以下の条件にあてはまる事業所の料理品(惣菜)販売額
	<ul style="list-style-type: none"> ・30m²以上250m²未満 ・飲食料品を扱っている ・14時間以上の営業

「惣菜白書」について

消費者調査の設計

- 1、調査対象；首都圏(1都3県)、近畿圏(2府3県)、東北圏(6県)、九州圏に居住する20代～60代の女性を対象に実施
- 2、調査手法；インターネット調査 (2019年2月12日～15日)

3、回収数

	20代	30代	40代	50代	60代	合計
首都圏	310	309	331	317	318	1,585
近畿圏	312	314	324	325	309	1,584
東北圏	207	221	210	215	215	1,068
九州圏	204	213	209	213	211	1,050
全体	1,033	1,057	1,074	1,070	1,053	5,287

4、質問項目

- ①種類別利用状況(購入頻度、場所、食事時間等)、 ②惣菜の購入状況(購入種類、購入金額、利用意向等)
- ③惣菜に関する意見、 ④食品全般に関する意見、 ⑤おせちに関する意見、 ⑥恵方巻に関する意見、
- ⑦袋物惣菜に関する意見

2017年版より価格改定

<名称>	2019年版 惣菜白書
<発行日>	2019年5月14日
<価格>	<p>○会員・賛助会員・受講生・惣菜管理士・学校関係者 3,000円(送料・税込)</p> <p>○一般企業、一般個人 5,000円(送料・税込)</p>

以下のQRコードから購入することができます。

ご購入方法
「日本惣菜協会」HP
→ 調査研究・出版物
→ 惣菜白書
→ 出版物のお申込み

